

**(報道タイトル) 薬学部薬用植物園の一般開放**

薬学部薬用植物園では、恒例となっております薬用植物園一般開放を10月18日(月)～22日(金)の5日間開催します。薬用植物を含む園内植物約800種が観察出来ます。また、今回開放の目玉は「徳島の人たちが描いた薬用植物画」、「漢方薬処方園の整備完了」、「絶滅危惧植物の花が見ごろ」です。

この薬用植物園開放では毎年県内外から1000人以上の皆様が来園され、好評を得ております。開園時間は9時～17時、無料です。

**(報道概要)**

1. 「徳島の人たちが描いた薬用植物画」:今回、徳島県内の絵画サークル等(15人程度)のみなさんに園内に咲く薬草をたくさん描いていただきました。同じ花でも描いた人の感じ方がそれぞれ違い、写真では出すことができない温かみを感じることができると思います。実習舎にて展示

2. 「漢方処方園の整備完了、映画化を進めています長井博士関連植物マオウ」:昨年より整備していました漢方処方園が完成しました。この中には、長井博士が世界で初めて「エフェドリン」を発見した関連植物マオウ(麻黄:マオウ)も観察出来ます。園内に植栽されているマオウは、20年は生きており、とても面白い樹形をしています。また日本では、ほとんど見ることができないイトヒメハギ(遠志:オンジ)や、徳島では非常に少なくなったオケラ(白朮:ビャクジュク)の花も見ることが出来ます。

3. 「絶滅危惧植物の花や実が見ごろ」:園内では絶滅危惧植物のダンギク、シオン、オミナエシの花が見ごろです。中でも、今年は「オトコオミナエシ」が園内で初めて咲きました。これは白花のオトコエシと黄花のオミナエシが交配して生まれたものです。またハマナツメやハマビシの実は、非常に面白い形をしているので、ぜひ見つけて下さい。

4. 「その他」:園内には薬用植物を含む約800種の植物が観察出来ます。漢方園、漢方薬処方園、染料植物園、民間薬園、ハーブ園などテーマ毎に植物を配置し、また看板も設置してあり、充分楽しい時間が過ごせます。

お問い合わせ先  
部局名 徳島大学薬学部  
責任者 高石 喜久(薬草園長、学部長)  
担当者 高石 喜久・今林 潔  
電話番号 088-633-7275 又は 642-1444  
メー ル ア ド レ ス  
takaishi@ph.tokushima-u.ac.jp